2019年度日本語教育実習　最終レポート

日本語教育について三年間を通して学んできましたが、日本語教育とは言ってもどういうことをするのか、どういう知識・技術が必要なのか、どうやったら日本語教師になれるのかなど、何も知識がない状態からのスタートでした。日本語教育についてはもちろんですが、私は人前に立つことが苦手なので、日本語教育を通して人前に立つことに対しての恐怖感をなくせるようにしたいと思っていました。一年生、二年生では日本語教師について考えたり、授業で使用する教科書や指導法、クラスルーム運営などの「知識」ついて多く学習したりしました。三年生では、前期・後期でそれぞれ実習授業があり、今まで学んで身に着けてきた知識を実習で実践することで「技能」を身に着けることができたと思います。

二年生の授業で、教案作成・10～15 分の授業をする機会がありました。教案作成の前に教案作成の仕方について学習しましたが、実際教案作成に取り掛かると、時間配分や授業の流れを考えるのに戸惑い、なかなか作業を進めることができず、とても苦しかったです。先生や友達にアドバイスをもらいながら、ようやく教案作成を終えることができました。教案作成を終えると教材づくりに取り掛かりましたが、作った教案にはどの教材が一番合っているのか、どの教材が分かりやすいかを考えました。教材を作り終えるといよいよ 10 分程度の授業をする時がきました。「恥ずかしがらずにする」という目標を立てて授業に挑戦しましたが、うまくできるだろうか、堂々とできるだろうかといろいろ考え、教壇に立ち学習者の方を見るだけで、緊張してしまいました。緊張しすぎて自分がどういう授業をしたのかあまり覚えていませんでしたが、授業後に先生が下さった DVD を見て、「アイコンタクトがとれていない」「表情がうまくつかえていない」という反省点に気づくことができました。授業後に DVD によって自分の授業を客観的にみることで、反省点だけでなく口癖や行動の癖などにも気づくことができ、またそれをレポートに書くことで、より頭に残りました。教案作成→教材作成→授業の流れを初めて経験して、教師の立場になって物事を考え教師がどんなものなのか知ることができ、授業後に DVD を見てレポートを書くことの大切さを学びました。また、他の生徒の授業を見ることで、自分とは違うアイディアを知ることができるということにも気づきました。

三年生では、いよいよ実習授業が始まりました。前期は、中国人留学生二人に四人で授業をしましたが、実際に学習者に授業をするのは初めてだったので、二年生のころと同様にとても緊張しました。ですが、緊張感に加えて「楽しみ」という気持ちが少しだけありました。今回の実習授業の目標も、二年生の頃と同様に「恥ずかしがらずにする」という目標に定めました。計三回の授業をしましたが、どの授業も教案作成・教材作成にとても悩み時間がかかりました。第一回目の授業では、「ハキハキとしゃべること」「もっとわかりやすい説明を心掛ける」という反省点がありました。二回目の授業では、「正しいイントネーションを身に着けること」「フィードバックの仕方」といった反省点が出てきました。

三回目の授業では、「学習者からの質問にうまく答えられなかった」という反省点がありました。また、二年生の授業後の反省点として出た「アイコンタクト」と「表情」もまだ足りないなと思う場面がありました。反省点も多くありましたが、フラッシュカードは後ろから前に持ってくること、フラッシュカードや絵カードは文字や絵に手が被らないように持つこと、授業前に板書計画をすることなど、多くのことを学ぶことができました。

この三回の授業を通して一番大切だと感じたのは、授業前の準備です。教案作成・教材作成を丁寧に細かくするのはもちろんですが、学習者からどのような質問がくるかを予想したり、CD を聞いてイントネーションの練習をしたり、フラッシュカードの文字に誤字がないかを確認したり、授業で何が必要なのかを予想しそれに向けて準備をしておいたりすることの大切さをとても感じました。準備はとても時間がかかり大変ですが、準備をしっかりしておくことで授業がスムーズに進んでいくのではないかと、三回の授業を終えて感じました。授業準備は大変で授業をするのは緊張しますが、学習者が一生懸命メモを取ってくれたり、分からないところを必死に理解してくれようとしてくれたりする姿がとても嬉しくて、自分ももっと頑張ろうという気持ちになりました。「日本語教師は大変だけど、嬉しいと感じられることがあるんだ」と知ることができました。

後期の実習では、前期とは違い日本語学校の学習者 20 人に授業をしましたが、今までの授業や実習とは比べられないくらいの緊張感がありました。実習前に授業見学に行きプロの先生の授業を見学しましたが、授業を進めるテンポや教師の言動、どんな教材を使用しているのか、などを実際に見ることができ、とても大きな刺激になりました。授業見学で学んだこと感じたことを、自分の授業で実践できるようにがんばろうという気持ちになりました。授業見学を終えたあと、自分は上手くできるだろうかという不安がとてもありましたが、今までの目標と同様「恥ずかしがらずやろう」という目標に加えて、「自分らしく楽しんでやろう」という目標を決めました。今回の実習の教案作成でも、今まで通り時間配分に悩みましたが、それに加えて、学習者がまだ学習していないことばや単語を調べること、どのような授業をするかを考えることが、とても大変でした。また、教材作成では文字の大きさにとても気をつけました。今までの教室よりも広い教室で学習者の数も多かったので、後ろの席の学習者も見えるように、なるべく大きな文字で書くことを心がけました。その他にも、後ろの学習者に聞こえるように大きな声でハキハキと話すことを心がけました。実際授業をしてみると、「やるしかない！」という気持ちになり、自分が思っていたよりもハキハキと堂々とできました。また、二年生の授業と前期の実習の反省点であった「アイコンタクト」も、意識をしてやってみると、しっかりできました。反省点としては、「文字カードを持つ位置が見えにくい位置だったこと」「会話文を読む際にもう少し気持ちを込めて読むこと」「アクセント・イントネーションを間違えないこと」などがありました。一回目、二回目、三回目とそれぞれ良かった点と悪かった点がありましたが、授業を重ねていく中で、少しずつ気持ちに余裕がでてきました。その結果、「もう少しアイコンタクトとろう」「学習者の理解度に合わせて授業を進めよう」などと考えられるようにな

った一方で、「もっとああいう風にできたかな」とか「もう少しああしたかったな」と思う部分もありました。この実習を終えて感じたことは二つありました。一つ目は授業前の準備・リハーサルが大切だということ。二つ目は、学習者の発言に対してのフィードバックをもう少し上手くできるようになりたいと思ったことです。教育実習が終わると、「終わって少し寂しい」という気持ちと「無事に実習を終えた」という安心感に包まれました。

この三年間で、たくさんのことを学びたくさんのことを経験し、とても成長できたと思います。初めの頃は何時間もかかっていた教案作成も、毎回戸惑いながらも、だいぶスムーズにできるようになりました。教材についても、ただ教材を作るだけでなく文字の大きさを考えたり、文字の色を変えたりと、工夫することもできるようになりました。また、初めの頃は緊張感しかありませんでしたが、回数を重ねるにつれて、緊張感に加えて楽しみな気持ちも持つことができていたので、気持ちの面でも成長できた気がします。そして、日本語教育を学ぶ前の目標であった「人前に立つことへの恐怖感」も、少しは克服できた気がします。実習でいざ教壇に立つと「やるしかない」という気持ちになり、自分が思っていたよりも堂々と授業ができ、自信になりました。「やればできるんだ」と思えるようになったので、とても良かったです。

日本語教育を通して、とても大切だと思ったことが二つあります。一つ目は準備についてです。先程も述べましたが、授業前の準備をしっかりすることで授業がスムーズに進みますし、授業への恐怖感が減ります。準備の大切さは授業だけに関わらず、全てのことに関して大切だと思います。何事も事前の準備をしっかり丁寧にやっていこうと強く思いました。二つ目は、授業を振り返ることの大切さです。振り返ることでどこが悪くてどこが良かったのか、自分の口癖や行動の癖などを知ることができます。悪かった点は次の授業で改善することができますし、良かった点は自分のモチベーションを上げてくれます。振り返りの重要性も、授業だけに関わらず全てのことにあてはまると思います。今まではあまり振り返りを意識したことがなかったのですが、これからは振り返りを大切にしていこうと思いました。日本語教師になるかはまだ決めることができていませんが、今述べた二つのことやその他に学んだこと感じたことを、これからの生活で活かして行きたいと思います。